

## 平成30年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果

大 学 名	大阪市立大学	タイプ	A
事 業 名	日米をつなぐ共創的ソーシャルイノベーター育成プログラム		
海 外 の 相 手 校	アンドリュース大学、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校、デラサール大学		

〔評価コメント〕

本事業計画は、既存の「グローバル・コミュニケーション副専攻」及び「コミュニティ再生副専攻」を核に、試験的に平成27年度から実施しているフィリピンのデラサール大学とのCOIL型演習や、平成29年から開始した米国のアンドリュース大学を含めた3大学間のネットワークを活用した授業の経験を基に、COIL型演習と短期留学を融合して地域共創をテーマとするコアプログラムの創設を目指している。これは、COIL型教育を梃子として大学教育のグローバル化を図るという本事業の趣旨と合致するものである。また、養成されるべき人材像も明確で、それをルーブリックにより測定・可視化しようとする点も具体性があり、評価できる。さらに、インターンシップ実施等にあたってNPOの協力を得る点もユニークである。

一方で、本事業の主眼である米国の大学との協力関係については、平成29年度にアンドリュース大学と初めてCOIL型教育の協力を開始したばかりであり、これまでの交流実績もほとんどなく、本事業の実施に向けた準備が必ずしも十分とは言えない。特に、本事業ではCOIL型教育を通じてアクティブラーニングを推進するという特別な狙いを持っているが、米国の相手大学との間で、そのための教育内容や形態の開発が十分進められているようには見受けられないことから、事業実施に向け早急に具体的な合意を形成する必要がある。

最後に、今回本事業に選定されたことを受け、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。